

2014年5月19日 掲載

日本流通新聞

第一貨物

久留米運送

車両相互利用を増便

東北一九州 8日から2便体制開始

第一貨物（本社―山形市、武蔵幸規社長）と久留米運送（本社―久留米市、二又茂明社長）は12日、8日から車両相互利用便を2便体制にしたと発表した。目的は大型トラックを相互使用し、運転者の労働時間の改善や輸送の効率化、リードタイムの短縮を図ることで、輸送品質を向上させ、顧客への最適な輸送サービスを提供することだ。

両社は昨年10月1日、塚支店発の九州から山形へ替えを行わず輸送することに「第一貨物・天童支店 形、東北向けの貨物は一車にならないため、開始当初は北大阪トラックターミナルで積み替えが必要となっていた。将来は物・久留米運送・トナミの輸送効率化を実現するため、継続して検討していくとしている。

8日に開始した車両相互利用便は、第一貨物・山形支店から九州向けの荷物を大型トラックに積載し、中継点の北大阪トラックターミナル（大阪府茨木市）で点呼、車両の点検を行い、貨物の積み替えを行わず、久留米運送・北大阪支店のドライバーが車両を引継ぎ、久留米運送・飯塚支店へ当日中に到着した。一方、久留米運送・飯

パン・トランス・ライン（JTL）がきっかけとなった。JTLと3社間で九州直行便について協議を継続し、第一貨物と久留米運送が昨年10月に開始した。今後は、トナミ運輸でも「第一貨物・久留米運送」両社との輸送の往復バランス改善面で、相互の輸送効率化を実現するため、継続して検討していくとしている。